

能「丹後物狂」シンポジウム

# 天橋立と室町文化

## ～義満と世阿弥の旅～



平成21年 **9月24日(木)** 午後2時から

場所：相国寺 承天閣美術館 (京都市上京区今出川通烏丸東入)  
京都市営地下鉄烏丸線 [今出川駅]下車 3番出口より徒歩約8分

定員：200名 (お申し込み先着順) **参加無料** ※お申し込みについては裏面をご覧ください。

### プログラム

#### 第一部

講演 テーマ「天橋立・智恩寺新発見」

講師：京都府立山城郷土資料館主任 伊藤太氏

講演 テーマ「義満の丹後の旅と世阿弥」

講師：東京大学教授 松岡心平氏

#### 第二部

《鼎談》「丹後物狂とその背景」

進行：東京大学教授 松岡心平氏

パネラー：臨濟宗相国寺派管長 有馬頼底氏

二十六世観世宗家 観世清和氏

多摩美術大学教授 島尾新氏

「丹後物狂」は、天橋立の智恩寺文殊堂で願掛けをして生まれた子どもをめぐるホームドラマです。近くの領主岩井殿(シテ)の一子花松(子方)は成相寺の稚児として勉学に励んでいましたが、実家に帰ったとき、雑芸も上手ですと聞いた岩井殿が腹を立て、勘当してしまう。花松は海に身を投げたところを助けられ、九州彦山の寺で学問に励んで大成し、説教僧として文殊堂に戻ってきます。そこに子を失って物狂いとなった父親が行き合わせ再会する、というストーリーです。

井阿弥の原作を世阿弥が大幅にリニューアルさせた「丹後物狂」は、足利義満の6回にも及ぶ天橋立旅行、天橋立好きを背景に生まれた曲だろう。世阿弥が最も得意とし、最も上演を好んだ曲の一つです。観世家二代の世阿弥はその子とこの曲を演じたに違いありませんが、今回は、観世家二十六代観世清和と子息三郎太による上演となります。しかも上演場所は、智恩寺文殊堂です。

本シンポジウムは、「天橋立と室町文化～義満と世阿弥の旅」と題し、天橋立の魅力、丹後物狂の誕生とその背景に迫ります。

【お申し込み・お問い合わせ】(社)天橋立観光協会

TEL：0772-22-8030 FAX：0772-22-8710

〒626-0001 宮津市字文珠314番地の2 天橋立ターミナルセンター内

主催：天橋立「能・丹後物狂」実行委員会

後援：京都府、宮津市、伊根町、与謝野町、京都新聞社、京都府観光連盟

協力：観世宗家、財団法人観世文庫、天橋山智恩寺、京都府立丹後郷土資料館